幕　屋

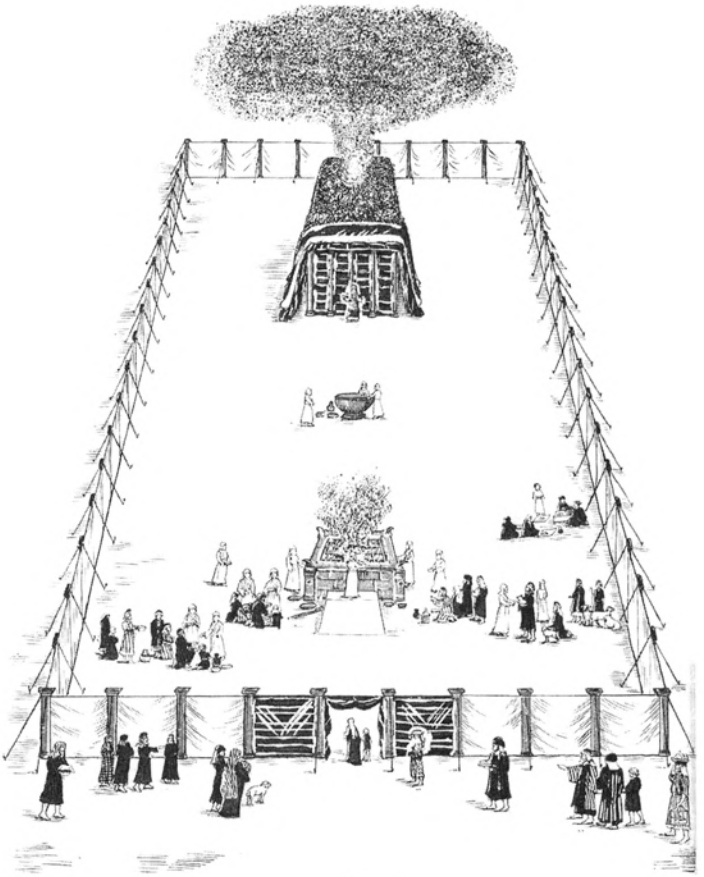
～祭司と捧げ物～

ヘンリー W. ソルトー

幕屋

～祭司と捧げ物～

ヘンリー・W・ソルトー



幕屋と庭

目次

1章　幕屋……一
レビ部族の区分……一
垂れ幕……三
色……六
青いひも……九
裂けた垂れ幕……三一
垂れ幕の柱……三八
幕屋のための幕……三九
ひもの輪と留め金……四九
やぎの毛の幕……五五
おおい……七五
じゅごんの皮のおおい……七八
天幕の入口……八二
幕屋の板と横木……九〇
贖い金……九九
贖い金の用途……一一五
銀のラッパ……一二四
幕屋の床……一三四
幕屋の庭……一三九
庭の入口……一四一

釘とひも……一六一
ひも……一六九
主立った働き手……一八一
安息日……一九二
幕屋のための惜しみないささげ物……二〇五
進んでささげるささげ物……二一七

2章　祭司の務め……二二六
祭司の務め……二二六
祭司……二三〇
栄光と美の装束……二三二
エポデ……二四二
エポデの上に結ぶ帯……二四四
しまめのうとわくと鎖……二四六
胸当て……二四七
赤めのう　（ヘブル語　Odem）……二五四
トパーズ　（ヘブル語　Pitdah）……二五七
紅玉　（ヘブル語　Bareketh）……二六〇
エメラルド　（ヘブル語　Nophech）……二六二
サファイヤ　（ヘブル語　Sappeer）……二六四
ダイヤモンド　（ヘブル語　Yah-ghalohm）……二六七
ヒヤシンス石　（ヘブル語　Leh-sham）……二七〇

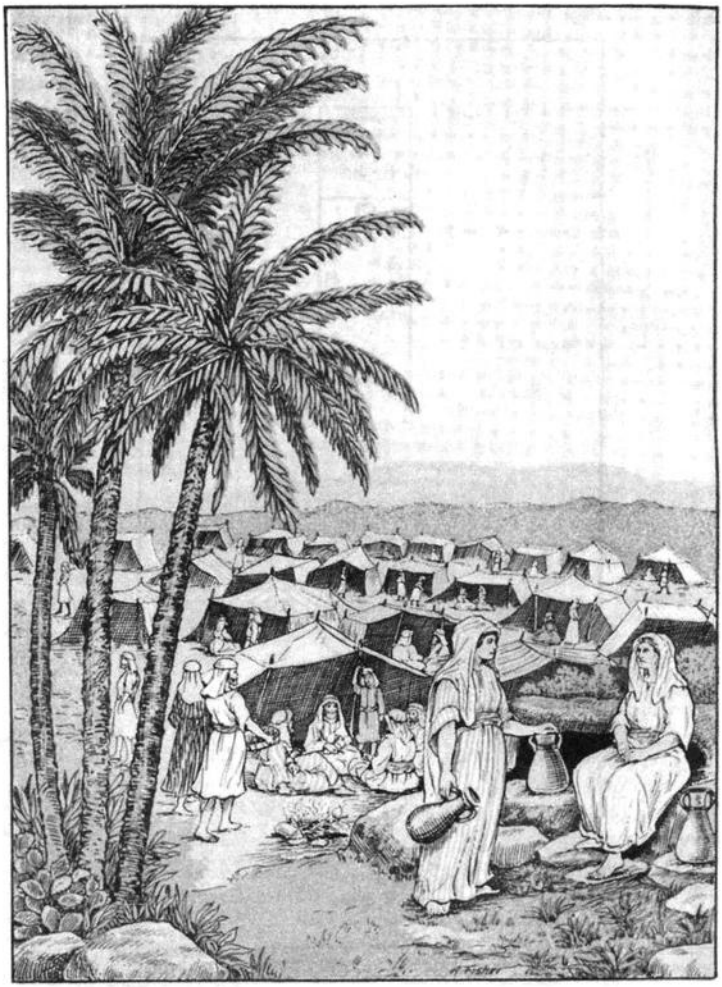
めのう　（ヘブル語　Shvoo）……二七二
紫水晶　（ヘブル語　Agh-lah-mah）……二七五
緑柱石　（ヘブル語　Tayshish）……二八〇
しまめのう　（ヘブル語　Shoh-ham）……二八三
碧玉　（ヘブル語　Jahsh-peh）……二九二
記念……三〇三
ウリムとトンミム……三〇五
金の鈴とざくろ……三一七
かぶり物……三二三
純金の札……三二八
市松模様の長服……三四二
飾り帯……三五二
アロンの子らのための装束……三五九
アロンの子らのための飾り帯……三六二
ターバン……三六八
亜麻布のももひき……三七一
幕屋の建造……三八三
雲……三八八
祭司の聖別……四一二
そそぎの油……四二一

3章　捧げ物……四四四
罪のいけにえのための雄牛……四四四
全焼のいけにえの雄羊……四五〇
任職の雄羊……四五五
祭司たちの食物……四八三
八日目の奉仕……四九七
全焼のいけにえのおしえ……五一一
贖いの日……五二三
聖なる亜麻布の装束……五二九
罪のためのいけにえ……五三〇
贖いのふたに血を振りかけること……五三三
香の祭壇への注ぎかけ……五四八
全焼のいけにえ……五八一
結びのことば……五八九
結びのことば……五九〇

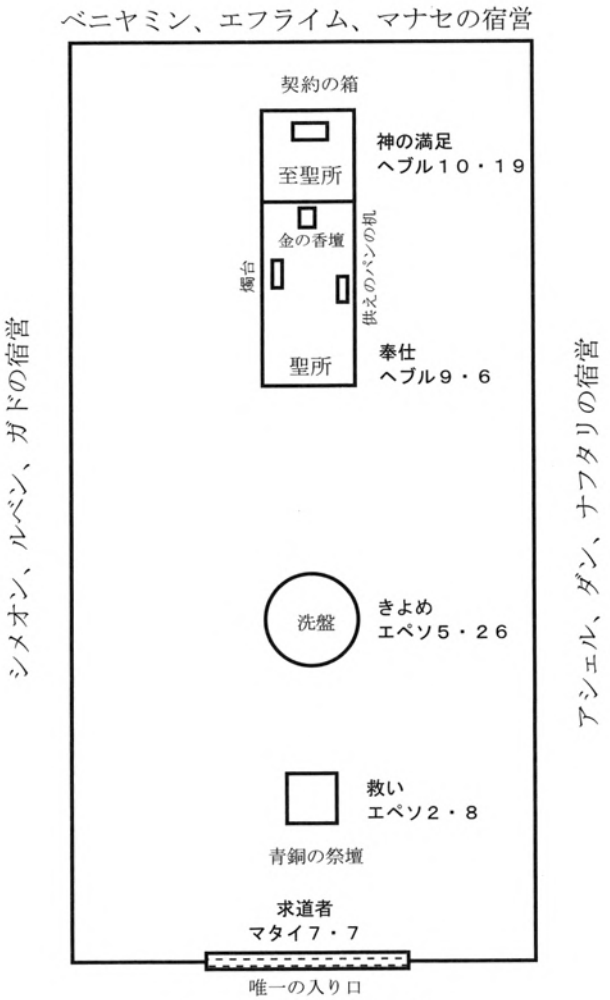
イラスト一覧

幕屋と庭……i
シンの荒野を旅する前にエリムの水のほとりで宿営したイスラエル人……vii
部族の配置と幕屋の図解……viii
幕屋の捧げ物……ix

過越しの子羊の血を家のかもいと門柱に塗っているイスラエルの家族……五八
急いで主の過越しをしているイスラエルの家族……五九
栄光と美の装束をまとったイスラエルの大祭司……二二八
贖罪の日のイスラエルの大祭司……二二九
幕屋の内部（幕を上げた状態）……二八六
幕屋の全体図……二八七
アザゼルのやぎ……五七八
罪のためのいけにえ……五七九
青銅の祭壇（おおわれていない状態と一部おおわれている状態）……五八五
青銅の洗盤……五八六
供えのパンの机……五八六
金の燭台とともしび皿と器（おおわれていない状態と一部おおわれている状態）……五八七
香壇（おおわれていない状態と一部おおわれている状態）……五八八
契約の箱と贖いのふた（おおわれていない状態と一部おおわれている状態）……五八九



シンの荒野を旅する前にエリムのほとりで宿営
したイスラエル人



部族の配置と幕屋の図解

1章　幕屋

レビ部族の区分

レビ部族は、レビの三人の息子であるゲルション、ケハテ、メラリのいずれの家系に属するかによって三つに分けられた。それぞれの家系には、幕屋のまわりに各々が宿営する場所が与えられ、それぞれが負うべき義務と責任が課せられた。メラリ諸氏族は北側に宿営し、幕屋の骨組みと、庭の回りに立てる柱と、銀や青銅の台座について責任を負い、それらを運び、設営した。

ゲルション諸氏族は西側に宿営し、幕屋や庭の垂れ幕、掛け幕、おおいを管理し、移動の際にはそれらのものを担いだ。一方、ケハテの諸氏族は南側に宿営し、幕屋の聖なる用具を運び、管理する職務が割り当てられていた。このように、全ての仕事がレビの三つの諸氏族に配分され、それぞれ異なる職務が割り当てられていた。

同じように、真理を三つに分けることができる。まず最初に、しっかりした土台と骨組みがなければ、幕屋そのものを建てることができなかった。このことは、救いの御業に欠くことのできない土台と柱を表している。すなわち、神であり、人であるキリスト御自身である。神の御子、イエス・キリストは永遠の存在であり、変わることがなく、変えられることもなく、昨日も今日も、いつまでも同じ、変わることのない方であられる。